

日本語教科書における 依頼表現に関する調査

辻 岡 咲 子

1. はじめに

これまで筆者は、日本語の依頼表現に関する2種類のアンケート調査を行い、その使用実態を調査してきた。本稿では、この使用実態を調査したデータと、日本語学習者向けの教科書で扱われる依頼表現とを比較し、どのような傾向が見られるのか、また、そこから教科書において、依頼表現として規範化している表現を調査する。まず、2種類のアンケート調査の結果を示し、続いて教科書の調査結果を見ていく。

2. 先行研究

まず、依頼場面と依頼表現の定義に関して述べる。蒲谷・川口・坂本(1998)は、「持ちかけ系」の対人行動の表現を「行動展開表現」と呼び、日本語の「行動展開表現」を表1のようにまとめ、依頼表現は以下のような基準となっている。

表1 「行動展開表現」の類型（蒲谷・川口・坂本1998をもとに作成）

表現意図	行動	決定権	利益	典型的な表現
忠告・助言	相手	相手	相手	シタホウガイイデスヨ
勧誘	両者/相手	相手	両者/相手/自分	シマセンカ/シマシヨウヨ
依頼	相手	相手	自分	シテモラエマセンカ/クレマセンカ
指示・命令	相手	自分	自分/相手/どちらでもない	シテクダサイ/シナサイ

日本語教科書における依頼表現に関する調査

許可与え	相手	自分	相手	シテモイイデス
申し出	自分	相手	相手	シテアゲマシヨウカ
許可求め	自分	相手	自分	シテモイイデスカ
確認	自分	相手	自分/相手/どちらでもない	シテモイイデスネ
宣言	自分/両者	自分	自分/相手/どちらでもない	シマス/サセテモライマス

表1によると「依頼」とは、「相手」に行動を促すもので、決定権は「相手」にあり、利益が「自分」に生じる「行動展開表現」である。よって、本稿では、話し手の期待する行動を相手に要求する表現形式を行為要求表現と呼び、これらの表現の中から、話し手への恩恵賦与を伴う行為に関する場面を依頼場面、また、この依頼場面で使用される表現形式で辻岡（2018）¹⁾で設定した依頼場面におけるアンケート調査で回答された表現を依頼表現と呼んでいく。一方で、表内の「行動展開表現」において「指示・命令」は、決定権が「自分」にある点で、「依頼」と異なっている。指示・命令の場面は、話し手へ行為を強制的に要求する場面と言え、「シテクダサイ」は指示・命令の典型的な表現としてあげられている。しかし一般的に依頼場面で使用される表現であり、辻岡（2018）のアンケート調査においても回答が見られるため、本稿では依頼場面で表れる「(して) ください」を依頼表現として扱う。

次に、宮地1995、山岡2008、岡本1988、山田2004にもとづき、日本語の行為要求表現（命令・依頼表現）のバリエーションを、以下の表2に整理する。

表2 「行動展開表現」の現代日本語の行為要求表現の分類

待遇形式の組み合わせ	行為要求表現	類別	記号
(I) 非敬語形・普通体	しろ	活用形類（命令形）	I 0
	して	活用形類（テ形）	I 1
	してくれ	クレル系命令類（クレ形）	I K0
	してくれる？	クレル系肯定疑問類	I K1
	してくれない？	クレル系否定疑問類	I K2
	してもらえる？	モラウ系肯定疑問類	I M1

日本語教科書における依頼表現に関する調査

	してもらえない？	モラウ系否定疑問類	I M2
	してもらって(も)いい？	モラウ系許可求め類	I M3
(Ⅱ) 非敬語形・ 丁寧体	してくれますか	クレル系肯定疑問類	Ⅱ K1
	してくれませんか	クレル系否定疑問類	Ⅱ K2
	してもらえますか	モラウ系肯定疑問類	Ⅱ M1
	してもらえませんか	モラウ系否定疑問類	Ⅱ M2
	してもらって(も)いいですか	モラウ系許可求め類	Ⅱ M3
(Ⅲ) 敬語形・ 丁寧体	してください	クレル系命令類 (クレ形)	Ⅲ K0
	くださいますか	クレル系肯定疑問類	Ⅲ K1
	くださいませんか	クレル系否定疑問類	Ⅲ K2
	していただけますか	モラウ系肯定疑問類	Ⅲ M1
	していただけませんか	モラウ系否定疑問類	Ⅲ M2
	していただいて(も)いいですか	モラウ系許可求め類	Ⅲ M3

分析の対象とする行為要求表現の待遇形式の組み合わせを、「(Ⅰ) 非敬語形・普通体」「(Ⅱ) 非敬語形・丁寧体」「(Ⅲ) 敬語形・丁寧体」に大別し、各表現には便宜上、記号をつけているが、Kは授与動詞、Mは受納動詞を示している。各表現の分類は「しろ」「してくれ」のような命令形、「して」のようなテ形、「してくれる?」「してもらえる?」のような肯定疑問類、「してくれない?」「してもらえない?」のような否定疑問類、「してもらってもいい?」のようなモラウ系許可求め類の4つに分類している。各類別を形式面で分類する記号としては、命令形を0、「テ形」及び「肯定疑問類」は1、「否定疑問類」は2、「モラウ系許可求め類」を3としている。これは、辻岡 (2018) と辻岡 (2019)²⁾ の調査において、分析の基準としたものであるが、本稿でもこの表2の類別にしたがって、分析を行っていく。

次に、これまで筆者が行ってきた依頼表現の使用実態に関するアンケート調査 (辻岡 (2018)、辻岡 (2019)) の結果で、回答が最も多かった表現を、以下にまとめる。

表3は、辻岡 (2018) の調査で行った自由記述式のアンケート調査である。表内には、最も多く回答された表現を示しているが、回答者の半数近くが回答した表現がある場合も合わせて示す。調査の結果、身内や親しい

表3 辻岡（2018）調査結果

負担度：小

		身内			非身内			
年下	弟妹	—			仲の良い友人	仲の良い先輩	初対面	—
	テ形				テ形 してくれない？	テ形 してもらってもいいですか	してもらってもいいですか	
年上	兄姉	父母	祖父母	仲の良い友人	仲の良い先輩	初対面	担当教員	
	テ形	テ形	テ形	してもらってもいい？	してもらってもいいですか	してもらってもいいですか	してもらってもいいですか	

表4 辻岡（2019）調査結果

		親しい同年代		親しい目上	
		若年層	中高年層	若年層	中高年層
負担度	小	テ形、してもらってもいい？	テ形、てくれる？	してもらってもいいですか	してもらえますか
	大	してもらってもいい？	してもらってもいい？	してもらえませんか	してもらえませんか
		初対面の同年代		初対面の目上	
		若年層	中高年層	若年層	中高年層
負担度	小	してもらってもいいですか	てもらえますか	していただいてもいいですか	していただけませんか
	大	してもらってもいいですか	てもらえませんか	していただいてもいいですか	していただいてもいいですか

相手には、テ形や「してくれない？」が選ばれ、非身内で疎の関係にある初対面や年上の相手には、「してもらってもいいですか」が回答されるという結果であった。

次に、表4は辻岡（2018）の調査結果をふまえて、若年層と中高年層に選択式アンケート調査を行った結果である。この調査では、主にモラウ系許可求め類の表現に関する考察を行った。その結果、両世代とも依頼内容の負担の大きい場面で回答しやすいが、若年層ではその使用範囲が中高年層よりも広く、初対面の同年代と親しい目上という待遇形式にゆれが生じる相手にも回答率が高いという結果になった。

3. 教科書の調査

以上、先行研究から依頼表現の使用実態を見てきた。次に、日本語学習

者向け教科書にある依頼表現を時系列に整理し、授受動詞を用いた依頼表現でどのような表現が扱われるのかを述べる。

調査は、以下に示す日本語教科書11種（初級6種、中級5種）を対象に、表1にあげた表現の形式が扱われているかを調査した。

まず、教科書内に見られる会話文の例で扱われる表現に関して述べ、最後にアンケート調査の結果を合わせた考察を行う。以下の表5は、教科書内の会話文（発話者の対人関係が明示されていないものも含む）で、表2であげた形式が使用された例の総数と、その中から依頼の意図を示す例の数を示している。

J1とJ5は、技能実習生向けの教科書で、依頼場面としては、実習担当者と技能実習生の会話といった上司と部下の社内での会話が多く、J4は留学生を対象とした教科書であるため、先生と学生、先輩と後輩といった学内での会話を中心に例をあげている。J2、J3、J6は、職場、家庭、学校、地域などで日本語によるコミュニケーションを今すぐ必要としている学習者を対象としている。

表5 教科書の依頼場面での会話文に見られる表現

会話文	初級						中級					
	J1		J2		J3		J4		J5		J6	
	総数	依頼	総数	依頼	総数	依頼	総数	依頼	総数	依頼	総数	依頼
テ形	—	—	—	—	—	—	2	1	—	—	—	—
てくれる	—	—	—	—	—	—	1	1	1	1	—	—
てくれない	—	—	—	—	—	—	4	4	1	1	—	—
てもらえない	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1
てくださいませんか	—	—	—	—	1	1	2	2	—	—	1	1
もらえますか	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1
もらえません	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1
してください	16	—	27	1	20	1	8	—	12	—	1	—
くださいませんか	1	1	—	—	1	1	1	1	—	—	—	—
いただけますか	—	—	—	—	—	—	1	—	1	—	—	—
いただけませんか	2	2	5	5	3	3	4	4	12	12	9	9

表4を見ると、敬語形では「してください」「していただけますか」、非敬語形では「してくれない？」の例が多いことがわかり、初級では、丁寧体のみのお話例があり、中級で普通体のお話例が出てくる。中級では、頼みにくい依頼をするという単元があることから、負担度の大きい依頼場面を扱っているが、ここでは「していただけますか」を用いた否定疑問類の例が見受けられた。

では、実際の例文を見ていく。以下は、丁寧体不使用の例である。例1のテ形の例は、一般的には、友達同士の会話でも使用される表現だが、教科書内では、家族同士の会話で見られた。例2の肯定疑問類の「てくれる？」は、前文に電話番号を知っているかを問うやり取りがあるため、依頼相手には依頼を遂行する能力があると認識したうえでの依頼であるため、肯定疑問類の表現が表れたのだと言える。一方で、否定疑問類の表現を見てみると例3の「てくれない？」は、比較的負担度の小さい依頼場面で用いて、例4の「てもらえない？」は「てくれない？」よりも負担度の大きい依頼をする場面で用いている。

例1 A：なんでもいいよ。作って。 J5 第12課

例2 A：あ、そうですか。じゃあ、ちょっと教えてくれる。何番。 J5 第12課

例3 同級生：山田さん、これ、コピーしてくれない。 J5 第6課

例4 B：ごめん。細かいお金あったら、貸してもらえない？ J6 第4課

以下は、丁寧体使用の例である。非敬語形では、「てくれませんか」(例5)と「てもらえますか」(例6)、「てもらえませんか」(例7)の例があり、例6の「てもらえますか」と例7の「てもらえませんか」は、文句を言う場面の例であったため、クレル系よりも相手と距離を置くモラウ系を用いた非敬語形の例があげられていた。

例5 A：タワポンさん、留学生の会長をしてくれませんか。 J6 第7課

例6 隣人：できれば10時ごろまでにしてもらえますか。 J6 第12課

例7 客：早く席に案内してもらえませんか。 J6 第12課

「てください」は、命令・指示の場面では、相手に利益がある場面と何か事柄や決まりを教える場面での例（例8、例9）や、聞き手に利益がある場合では、例10のような「教える立場」と「教わる立場」という立場関係ができる依頼場面や例11のような勧めの場面での例が見受けられた。「てくださいませんか」（例12）は、「ていただけませんか」（例13）の例より数が少なく、教科書の傾向として、クレル／クダサル系の表現よりもモラウ／イタダク系の方が多かった。例14の「ていただけますか」は、依頼する前に相手に依頼内容の遂行が可能かどうかを確認した後、最後に確認する例として上がっており、単純な依頼としての例は見受けられなかった。

例8 上司：工場に入るときは、必ずこのヘルメットをかぶって、安全靴
をはいてください。 J1 第33課

例9 銀行員：それからこの確認ボタンを押してください。 J2 第16課

例10 利用者：すみませんが、ちょっと使い方を教えてください。
J2 第16課

例11 上司：ゆっくり楽しんで来てください。 J2 第48課

例12 初対面の人：すみません。そこに着いたら、教えてくださいませんか。
J1 第27課

例13 社員：あのう、コピーのとり方を教えていただけませんか。
J1 第44課

例14 学生：いらっしゃっていただけますか。 J4 第2課

続いて、以下の表6は、依頼の意図を示す例の中で対人関係が明確になっている例のみに限定し、対人関係の類別を基準に、依頼する相手を分類し、さらに依頼内容の負担度の大小によって集計したものである。対人関係の類別は、上下関係（年齢、職階、身分など）、立場関係（客と店員、先生と生徒など）、親疎関係（親しいか親しくないか）で分けている。これを

教科書内の登場人物に当てはめると以下の通りになる。

上下関係：先輩と後輩、上司と部下

親疎関係：隣人、初対面の人、友人

立場関係：先生と生徒、管理人と住居者、客と店員

また、蓋然性と遂行の可能性という基準を設け、表6にまとめた。蓋然性は、立場関係が生じる関係において、依頼を問題なく頼める相手の場合と会話文から蓋然性が高いと判断できる場面を分類した。遂行の可能性は、被依頼者に依頼を遂行することが可能であるかの基準である。負担度が小さい場面と負担度が大きい場面で蓋然性の高い場面は、遂行の可能性がある場面とし、負担度が大きい場面でかつ蓋然性の低い場面や会話文から、相手が依頼を遂行できる状況ではないと判断できる場面を遂行の可能性がない場面とした。

上下関係に分類した例は、全部で5例であったが、依頼者より目下の相手に負担度の大きい依頼をする場面は見受けられなかった。

表6 依頼場面（依頼の相手）

対人関係 の類別		上下関係				立場関係				親疎関係			
		上（4例）		下（1例）		上（15例）		下（8例）		疎（17例）		親（2例）	
負担度	大	2	例15	0	—	8	例18	3	例24	9	例25 例26	0	—
	小	2	例16	1	例17	7	例19 例20	5	例21 例22 例23	8	例27 例28	2	例29 例30
蓋然性	高	0	—	0	—	14	例18 例20	4	例21 例24	1	例26	0	—
	低	4	例15 例16	1	例17	1	例19	4	例22 例23	16	例25 例27 例28	2	例29 例30
遂行の可能性	有	3	例16	1	例17	13	例18 例19 例20	7	例21 例22 例23	2	例26 例27 例28	2	例29 例30
	無	1	例15	0	—	1	—	1	例24	15	例25	0	—

例15 上下関係(上) 負担度:大(後輩→先輩) 蓋然性:低 遂行可能:無
交流パーティで司会をしていただけませんか。 J6 第1課

例16 上下関係(上) 負担度:小(後輩→先輩) 蓋然性:低 遂行可能:有
すみません。ちょっとそのボタンを押していただけますか。
J4 第1課

例17 上下関係(下) 負担度:小(先輩→後輩) 蓋然性:低 遂行可能:有
ローラさん、悪いけど中山くんとこのテープレコーダー借りてきてく
れない。 J4 第1課

立場関係に分類した例は、全部で23例あり、依頼者より目上の相手に依頼する場面の方が多かった。

例18 立場関係(上) 負担度:大(学生→先生) 蓋然性:高 遂行可能:有
あのう、水曜日の午後にかえていただけませんかでしょう。 J4 第1課

例19 立場関係(上) 負担度:小(住居者→管理人) 蓋然性:低 遂行可能:有
電話がないためガス会社にすみませんが、連絡していただけませんか。
J2 第26課

例20 立場関係(上) 負担度:小(研修生→先生) 蓋然性:高 遂行可能:有
あのう、日本語で手紙を書いたんですが、ちょっと見ていただけませんか。

例21 立場関係(下) 負担度:小(先生→学生) 蓋然性:高 遂行可能:有
うん。じゃ、中山くん、いつがいいか決めといてくれないか。
J4 第1課

例22 立場関係(下) 負担度:小(管理人→住居者) 蓋然性:低 遂行可能:有
馬さん、悪いけど、その空き缶取ってくれるか? J5 第20課

例23 立場関係(下) 負担度:小(管理人→住居者) 蓋然性:低 遂行可

能:有

馬さん、ついでにこの空き缶、玄関の所まで持って行ってくれない？

J5 第20課

例24 立場関係(下) 負担度:大(客→店長) 蓋然性:高 遂行可能:無
早く席に案内してもらえませんか。

親疎関係に分類した例は、全部で19例あり、疎の関係にある相手に依頼する場面が多かった。親の関係の相手に依頼する場面を扱っていたのは、J4 の留学生対象の教科書のみであった。また、依頼者より目下の人物に負担度の大きい依頼をする場面は、どの教科書にも見受けられなかった。

例25 親疎関係(疎) 負担度:大(日本人社員→韓国人研修生) 蓋然性:低
遂行可能:無

小林:金さん、すみませんが、韓国語を教えていただけませんか。

金 :えっ、私が教えるんですか。ううん、自信がないですね。

小林:いえ、ただ一緒に韓国語でおしゃべりをするだけでいいんです。

金 :ああ、そうですか。それなら私にもできそうです。

小林:あっ、やっていただけます？

金 :ええ、喜んで。

J5 第3課

例26 親疎関係(疎) 負担度:大(隣人→外国人会社員) 蓋然性:高 遂行可能:有

できれば10時ごろまでにしてもらえますか。

J6 第12課

例27 親疎関係(疎) 負担度:小(研修生→初対面) 蓋然性:低 遂行可能:有

ちょっと伺いますが、技術センターへ行く道を教えてくださいませんか。

J5 第9課

例28 親疎関係(疎) 負担度:小(隣人同士) 蓋然性:低 遂行可能:有
それで申し訳ありませんが、預かっておいていただけませんか。

例29 親疎関係(親) 負担度:小(留学生→同級生) 蓋然性:低 遂行可能:有

- 山田さん、これ、コピーしてくれない。 J4 第6課
例30 親疎関係(親) 負担度:小(友人同士) 蓋然性:低 遂行可能:有
ごめん。細かいお金あったら、貸してもらえない? J6 第4課

依頼場面で多く見られた例は、敬語形では「していただけませんか／していただけないでしょうか」、非敬語形では「してくれない?」のような否定疑問類の表現であった。一方で、肯定疑問類の表現は、社員寮の食堂で、管理人から居住者に対してゴミの分別を手伝ってもらえるように働きかける発話で「てくれる?」を用いた例や、韓国人社員に韓国語を教えてほしいと頼んだ後、最後に依頼の念押しや確認を意図する発話例として例、深夜の騒音について苦情を言う場面の例があり、いずれも依頼内容の遂行に蓋然性のある場面に用いられていた。

以上、初級と中級の教科書を見て来たが、アンケート調査で多く回答されていたモラウ系許可求め類の表現は見受けられなかった。初級の教科書のJ2は、初版が1998年であるが、2012年と2013年に出版された第2版(J3)にもモラウ系許可求め類の表現の記載がなかったことから、日本語教育の場面で扱われるほどの表現とはみなされていないということがわかった。

4. 総合的な分析(アンケート調査の結果と教科書調査の結果の比較)

ここからは、アンケート調査の結果と教科書の結果を合わせて考察していく。

2種類のアンケート調査で多く回答されていた表現は、モラウ系許可求め類の表現であったが、教科書内では、扱われていなかった。世代差がなく、モラウ系許可求め類の表現が使用されやすい場面は、親しい同年代と初対面の目上でいずれも負担度の大きい場面であるが、親しい同年代に関しては、教科書内では、あまり会話例がなく、親しい同年代の負担度の小さい場面では、「してくれない?」を用いた例は見受けられたが、負担度の大きい場面は扱われていなかった。一方で、初対面の目上が相手の場合

表7 モラウ系許可求め類への置き換え

置き換え可／不可	用例
○	例17、例21、例22、例23、例29、例30
△	例16、例18、例19、例26
×	例15、例25、例27

は、例25のような「道をたずねる」という場面が教科書では見られたが、「していただけますか」の例しかなく、負担度の大きい場面の場合は「していただけないでしょうか」というモラウ系否定疑問類の表現が用いられ、モラウ系許可求め類の表現は扱われていなかった。これは、上司や先生といった立場関係が上の相手に対しても同様であり、「していただけますか／していただけないでしょうか」が例としてあがっていた。

また、モラウ系許可求め類の表現は、若年層において初対面の同年代や親しい目上といった待遇形式の選択に揺れがでやすい相手に選択されやすい傾向があるが、このような複雑な設定の依頼場面は教科書内では扱われておらず、初対面であれば「していただけますか」を用い、親しい相手であれば「してくれない？」を用いている。

では、次に、使用実態では、高い割合で表れるモラウ系許可求め類の表現が、なぜ教科書内で扱われていないのかを考察するため、まず、実際に教科書の例をみながら既存の表現とモラウ系許可求め類の表現と置き換え可能であるか、筆者の内省も含めてみていく。

以下の6例は、敬語不使用の場面の例であるが、この場合、問題なく置き換えが可能である。これらは、表3の調査結果とも合致する。

例17 上下関係(下) 負担度:小(先輩→後輩)

ローラさん、悪いけど中山くんとこのテープレコーダー借りてきてくれない。
J4 第1課

例21 立場関係(下) 負担度:小(先生→学生)

うん。じゃ、中山くん、いつがいいか決めといてくれないか。
J4 第1課

例22 立場関係(下) 負担度:小(管理人→住居者)

馬さん、ついでにこの空き缶、玄関の所まで持って行ってくれない?

J5 第20課

例23 立場関係(下) 負担度:小(管理人→住居者)

馬さん、悪いけど、そこの空き缶取ってくれる?

J5 第20課

例29 親疎関係(親) 負担度:小(留学生→同級生)

山田さん、これ、コピーしてくれない。

J4 第6課

例30 親疎関係(親) 負担度:小(友人同士)

ごめん。細かいお金あったら、貸してもらえない?

J6 第4課

次に、敬語使用の場面で、上下関係や立場関係が目上の人物、疎の関係の人物に対する例である。

以下の4例は、モラウ系許可求め類の表現と置き換えは可能だが、いずれも相手に依頼内容が遂行可能であると依頼者が想定する場面で用いる。また、例18、例19のように依頼者は行動が不可能な状況にあるため、相手に頼まざるを得ないという場面で置き換えが可能であると思われる。

例16 上下関係(上) 負担度:小(後輩→先輩)

すみません。ちょっとそこのボタンを押していただけますか。

J4 第1課

例18 立場関係(上) 負担度:大(学生→先生)

(以前にお願いしていた事をあったが、都合が悪くなったため、)

あのう、水曜日の午後にかえていただけませんか。

J4 第1課

例19 立場関係(上) 負担度:小(住居者→管理人)

(電話がないためガス会社に)すみませんが、連絡していただけますか。

J1 第26課

以下の例26は、深夜の騒音について隣人に苦情を言う場面であるが、「深夜に騒音を出すことは非常識な行為なのだから、こちら(発話者)から要

求し、それを当然受け入れてもらえるだろう」と取れる場面でも置き換えができると思われる。

例26 親疎関係(疎) 負担度:大(隣人→外国人会社員)

できれば10時ごろまでにしてもらえますか。 J6 第12課

最後に、モラウ系許可求め類の表現の置き換えが不可能な場面を見ていく。以下の3例は、依頼を引き受けてもらえるという蓋然性は低く、その人でなくてはならないという場面でもないため、唐突すぎるという印象がある。このような場面での使用は、「当然依頼を引き受けてもらえる」と決めつけるニュアンスが生じるため、モラウ系許可求め類の表現は、置き換えができないと思われる。そのため、例から例を置き換えられる場面として考えるとすれば、例15であれば、依頼する先輩が普段から司会をしているため、引き受けてもらえるだろうと依頼者が判断した場合、例25であれば、韓国語の先生で韓国語を教えてもらえるような会話の展開がある場合、例27であれば、道を知っているかとたずねて相手を知っているとわかれば置き換えが可能であると思われる。

例15 上下関係(上) 負担度:大(後輩→先輩)

交流パーティで司会をしていただけませんか。 J6 第1課

例25 親疎関係(疎) 負担度:大(日本人社員→韓国人研修生)

小林:金さん、すみませんが、韓国語を教えていただけませんか。 J5 第3課

例27 親疎関係(疎) 負担度:小(研修生→初対面)

ちょっと伺いますが、技術センターへ行く道を教えてくださいませんか。 J5 第9課

以上、例文を見てきたが、依頼場面でモラウ系許可求め類の表現は、依頼内容の遂行に蓋然性が高い場面で、依頼者が相手に依頼内容が遂行可能であると判断できる場面に置き換えが可能だと思われる。しかし、その判断は、唐突な依頼や依頼内容の遂行に蓋然性が低い場面では、押しつけが

ましいといったニュアンスを与えるため、置き換えることが不可能だと言える。

今回、見て来た例文で置き換えができないと判断した場面は、疎の関係の人物への場面であるが、辻岡（2020）³⁾では、疎の関係に対してモラウ系許可求め類の表現に関する調査をしており、この調査では、上下関係が上で、立場関係と人間関係の継続性のない相手、あるいは、上下関係と人間関係の継続性の生じない立場関係が下の相手にモラウ系許可求め類の表現の許容度が高いという結果を出している。この調査では、本稿で設けた依頼内容の蓋然性や遂行可能の分析基準は、設けていないが、この基準を当てはめるといずれの場面も相手に対して依頼の遂行の可能性が高く、蓋然性が高いと判断が可能な場面を設定していた。この調査結果からもわかるように、教科書の依頼場面の例文において、疎の関係の人物であっても依頼の蓋然性が低い場合は、モラウ系許可求め類の表現は置き換えにくいと言える。

次にモラウ系許可求め類の表現の文法構造にも注目する。その理由は、教科書の学習項目としては複雑な構造をしている点も学習項目になりにくい要因の1つだと思われる。以下の表8は、モラウ系許可求め類の表現を習得するまでに必要な単元をまとめたものである。

表8 教科書単元まとめ

級	教科書	対象	種類	課数	疑問文	授受表現	テ形	依頼表現	許可求め許可与え	授受動詞の補助動詞用法
初級	J1a	技術研修生 一般成人	総合教科書	全25課	第1課	第7課	第14課	第14課	第15課	第24課
	J1b	技術研修生 一般成人	総合教科書	全25課	—	—	—	第26課	—	—
	J2a	外国人	総合教科書	全25課	第1課	第7課	第14課	第14課 第16課	第15課	第24課
	J2b	外国人	総合教科書	全25課	—	—	—	第26課	—	—
	J3a	外国人	総合教科書	全25課	第1課	第7課	第14課	第14課	第15課	第24課
	J3b	外国人	総合教科書	全25課	—	—	—	第26課	—	—

日本語教科書における依頼表現に関する調査

中級	J4a	留学生 一般成人	会話中心 教科書	全9課	第1課	第6課	第1課	第1課	第4課	第6課
	J4b	留学生 一般成人	会話中心 教科書	全9課	—	—	—	—	—	—
	J5	技術研修生 一般成人	総合教科書	全20課	—	—	—	第3課	第4課	—
	J6a	外国人	総合教科書	全25課	—	—	—	第1課	—	—
	J6b	外国人	総合教科書	全25課	—	—	—	—	—	—

表8によると、授受動詞を用いた依頼表現として、最初に学習する表現は「してください」であるが、初級の第14課で導入され、「していただけますか」や「していただけませんか」は、初級では第26課、中級では第1課、あるいは第3課で学習する。アンケート調査で回答されていたモラウ系許可求め類の表現を依頼表現として導入するには、許可求め表現を習う必要があるが、初級Ⅰの第15課で学習する。よって、現在使用されている依頼表現は、構文を学習する時期だけを見ると、初級の段階で全ての表現を学習するということがわかるが、「していただけますか」と比較するとその構造は非常に複雑であるということも見て取れる。

中級（J4、J5、J6）では、頼みにくい依頼をするという単元があるが、アンケート調査の項目では、負担度の大きい場面にあたり、「していただいてもいいですか」のような表現が出やすい場面だと言えるが、ここでは「していただけますか」を用いた例があげられていることからして、モラウ系許可求め類の表現が規範的な依頼表現として扱われていないということがわかる。

これを踏まえて、モラウ系許可求め類の表現が、規範的な依頼表現になりにくい要因として考えられるのは、現段階では使用実態に世代差が出る表現であるという点も関係していると思われる。この表現は、砂川（2005）が述べるように、高年層には違和感を持たれる可能性のある、比較的新しい表現で、現在定着しつつある表現であり、2000年以降その使用が急激に増加した表現である。そのため、その使用実態が教科書の内容に反映されていないとも考えられる。よって、実際の日常生活で選ばれやすい表現で

あったとしても、教科書での学習項目にはなりにくいのだと思われる。

5. まとめと今後の課題

本稿では、2種類のアンケート調査を用いて依頼表現の使用実態を述べた上で、日本語学習者向けの教科書における依頼表現との比較を行った。

教科書の依頼場面を見ていくと、多く設定されている場面は、上下関係や立場関係で目上の人物や疎の関係の人物に対する場面であり、親しい同年代や友人といった敬語を使わなくてよい場面設定は少なかった。上下関係や立場関係で目上の人物や疎の関係の人物に対する場面の場合、「していただけませんか」の例が多くあがっており、敬語不使用の場合は「してくれない？」を用いた例が多かった。ここから、これらの表現が、依頼表現として規範的な表現とされているということがわかった。

一方で、アンケート調査で多く見られたモラウ系許可求め類の表現は、教科書内では、扱われていなかった。この表現は、親しい同年代と初対面の目上に対して、いずれも負担度の大きい場面で用いられる傾向にあるが、負担度の大きい場面では「していただけませんか」を用いた例があがっており、アンケート調査の結果と教科書で扱われる表現は一致していないということが明らかになった。

最後に、今後の課題を述べる。本調査において、遂行の可能性のある場面を、役割関係の生じる負担度が小さい場面と基準を設けて分類したが、実際の日常では、役割関係が明白であっても相手が依頼に応じられない状況にある場合もあるため、このような場面では遂行の可能性がない場面となる。今後は、その点を考慮した明確な基準を設ける必要があると思われる。今回は、依頼表現を比較する資料として、教科書の例文を用いて考察したが、この考察が妥当であるかを検証するため、教科書では扱われていない場面や教科書とは異なった性格の資料を調査する必要があると考える。

注

- 1) 日韓において若年層を対象に行為要求表現に関する自由記述式のアンケートを行った。質問項目は「自分の写真を撮ってもらう」という依頼場面で依頼の相手として設定した。
- 「弟／妹」「親しい年下の友人」「親しい年下の先輩」「初対面の年下」「兄姉」「父母」「祖父母」「親しい年上の友人」「親しい年上の先輩」「初対面の年上」「ゼミの担当教授」のそれぞれに対してどのように言うかを回答。回答者：日本語母語話者1989～1995年生まれ、51名（男性13名、女性38名）韓国母語話者1985～1994年生まれ、71名（男性15名、女性56名）日本調査時期：2013年5月、韓国調査時期：2012年9月
- 2) 筆者が日本と韓国で行った、日本語母語話者（若年層・関西大学の学生100名、中高年層・関西在住者80名）と韓国語母語話者（若年層・嶺南大学の学生100名、中高年層・慶尚道在住者30名）を対象とする選択式アンケート調査のデータを分析する。日本での調査は2014年11月、韓国での調査は2016年6月に実施した。調査では、依頼表現を選択する際に意識が働くと考えられる上下関係、親疎関係、相手に対する依頼内容の負担度の3つを分析の基準として、これらを組み合わせた依頼場面で調査を行った。調査の内容は、場面1「ペンを借りる」（負担度・小）、場面2「日程変更」（負担度・大）の依頼場面を設定し、(1)親しい同年代、(2)初対面の同年代、(3)親しい目上、(4)初対面の目上の相手に対して使用する依頼表現を、日本語は18の選択肢から、韓国語は22の選択肢からそれぞれの相手に対して使用するものを全て選択するというものである。
- 3) 疎の関係の人物への依頼場面で使用する依頼表現に関する2種類の調査を、同一の回答者に対して、期間を隔てて実施した。〈調査1〉自由記述式アンケート 回答者：若年層30名・96～98年生まれ（愛知2名／京都2名／奈良5名／大阪15名／兵庫5名／広島1名）調査時期：2018年10月。質問項目(1)ゼミの先生に対して論文の添削を頼むとき、(2)荷物で手がふさがっているため、エレベーターで初対面の目上の人に階数ボタンを押してもらうよう頼むとき、(3)ホテルのカウンターでスーツケースを預かってもらうよう頼むとき、(4)電車の中で初対面の目上の人に対して、席をつめて座るよう頼むとき、(5)飲食店で注文したデザートがいつまで待っても出て来ないため、持ってくるよう頼むとき、(6)インターネットで購入したDVDが破損していたため、電話で商品の交換を頼むとき、〈調査2〉選択式アンケート 回答者：〈調査1〉と同じ、調査時期：2018年11月、質問項目：〈調査1〉と同場面、9つの選択肢から使うもの全てに○をつける。各場面は、①上下関係（目上と目下）の有無、②役割関係（学生と先生、客と店員）の有無、③人間関係の継続性の有無の3つの基準にあてはめて分けた。この中で(3)(4)(6)の場面は、先行研究の言いにくい事柄を伝える場合という観点から場面を設定して、いずれも疎の人物に対して依頼をしてもいい場面、あるいははしなくてはならない場面、相手側に非があるという場面を設定した。

参考教科書

日本語教科書

[初級]

- J1 スリーエーネットワーク編 (1990)『新日本語の基礎Ⅰ』一般財団法人海外産業人材育成協会
スリーエーネットワーク編 (1993)『新日本語の基礎Ⅱ』一般財団法人海外産業人材育成協会
- J2 スリーエーネットワーク編(1998)『みんなの日本語 初級Ⅰ』スリーエーネットワーク
スリーエーネットワーク編(1998)『みんなの日本語 初級Ⅱ』スリーエーネットワーク
- J3 スリーエーネットワーク編(2012)『みんなの日本語 初級Ⅰ第2版』スリーエーネットワーク
スリーエーネットワーク編(2013)『みんなの日本語 初級Ⅱ第2版』スリーエーネットワーク

[中級]

- J4 名古屋大学出版会編 (1988)『現代日本語コース中級Ⅰ』名古屋大学日本語教育研究グループ
名古屋大学出版会編 (1990)『現代日本語コース中級Ⅱ』名古屋大学日本語教育研究グループ
- J5 スリーエーネットワーク編 (2000)『新日本語の中級』一般財団法人海外産業人材育成協会
- J6 スリーエーネットワーク編(2008)『みんなの日本語 中級Ⅰ』スリーエーネットワーク
スリーエーネットワーク編(2012)『みんなの日本語 中級Ⅱ』スリーエーネットワーク

先行研究

- 岡本真一郎 (1988)「依頼表現の使い分けの規定因」『愛知学院大学文学部紀要』18
- 蒲谷宏・川口義一・坂本恵 (1998)『敬語表現』大修館書店
- 砂川有里子 (2005)「ご住所書いてもらっていいですか」北原保雄編『続弾！問題な日本語 何が気になる？どうして気になる？』大修館書店
- 辻岡咲子 (2018)「日韓における行為要求表現の運用に関する対照研究」『国文学』102
- 辻岡咲子 (2019)「依頼場面における許可求め表現の使用の動態」『国文学』103
- 辻岡咲子(2020)「疎の関係の人物に使用される依頼場面での許可求め表現に関する調査」『国語学』104
- 宮地裕 (1995)「依頼表現の位置」『日本語学』14 (10)。
- 山岡政紀 (2008)『発話機能論』くろしお出版

日本語教科書における依頼表現に関する調査

山田敏弘（2004）「日本語のベネファクティブ——「てやる」「てくれる」「てもらう」の文法——」『明治書院』